

# PROLOGUE

木二中 学校だより No.14 令和6年7月8日  
校長 山元 竜二

木更津市立木更津第二中学校  
〒292-0801 千葉県木更津市請西941番地  
☎0438(36)2280 FAX0438(36)2233  
E-mail:kisarazu2-j@kisarazu.ed.jp  
<https://www.fureai-cloud.jp/kisa-kisarazu2-j>



## 「遠慮」と「配慮」について 各学年、各学級のリーダーたちへ 2学期に向けて

遠慮[えんりょ]: 人に対して、言葉や行動を慎み控えること

配慮[はいりょ]: 事情をふまえて、気遣いのこもった取り計らいをすること

遠慮と配慮を辞書で調べると、概ね上記のように記されています。

リーダーたる者、人の上に立ち、集団を正しい方向へと導くバイタリティが求められるのは言うまでもなく、自身の考えや展望を「発信」していくこともリーダーとして求められる資質の一つではないでしょうか。ただ、自身の考えや展望、思いを「発信」することは、その手段に違いはあっても何もリーダーだけに求められるものではなく、社会を生きていく上で誰にでも必要とされるスキル、望ましい人間関係を構築するための数あるスキルの内の一つであると私は考えています。

各学年・各学級のリーダーたち、教室の中を今一度見渡してみてください。何が見えるだろうか？きっとそこには心の眼で見なければ見えてこないものがあるのではないだろうか？心の耳で聞かなければ聞こえてこないSOSがあるかもしれない…。全身全霊で感じなければ感じとることができない感覚があるのではないだろうか？

学年や学級における様々な決め事が、発信力のある人たちだけで決まっているのだとしたら、決してその組織は民主的とは言えない。たかだか中学校の教室とはいえ、世の中(社会)同様、なかなか自身の思いを発信力のある人と同じように上手に伝えられないという人たちが一定数存在しているのは当たり前のことで、リーダーたる者、そのような人たちにもしっかり目配り気配りができていなければならない。声なき声に耳を傾けることができればならない。

気心が知れている仲のいいメンバーで周囲を固め、発信力のある人たちだけで様々な決め事が決められていく組織のリーダーは、真のリーダーではない。逆に決して一方通行の発信だけではなく、自身への批判であっても真摯に耳を傾け、声なき声をも聞き取ろうとする姿勢や、集団にとって何がベストなのかを総合的に判断しようとする姿勢があるリーダーこそが真のリーダーである。私はそう信じて止みません。

リーダーたちだけに言えることではなく、誰に対しても言えることでもあります、

**「遠慮」はするな、「配慮」しろ。** ということ。

遠慮とは、辞書にもあるように他人の気持ちや状況を考えて自らの行動・発言を控えること。一方、「配慮」とは、他人の立場・状況を理解して、その上で(他人にとって)最適の行動をとること、相手に対して心遣いができること。

遠慮ばかりしていると、相手ファーストで自分の言動・行動に制限をかけることになるので、相手に合わせてばかりのつまらない人生になってしまいます。一見、相手のためのように見えるけど、結果として自分自身のための行動制限。つまり、自分自身をないがしろにする行動になってしまう。

一方、配慮は、同じ相手ファーストであっても自らの行動を制限するのではなく、相手のために能動的に行動すること。相手にとって何が最適な行動かを心を働かせて考えなければならないから、自分の行動を控える(遠慮)ことより勇気が必要になるかもしれないけど、これは相手を大切にする行為。相手を大切にする行動は、自分自身を大切にできていなければならないことではないので、結果として自分自身の人生が広がり豊かになることにつながる。

各学年・各学級のリーダーたち、組織の一人ひとりに配慮ができるリーダーになれているだろうか？リーダーたちだけでなく組織の一員である一人ひとりに、リーダーや組織に対する配慮はあるだろうか？組織の一員としてとるべき行動(義務)を怠っておいて、自己の都合(権利)ばかりを主張していないだろうか？

『「遠慮」はするな、「配慮」しろ』の「遠慮」はするな、は「マウントをとれ」ということではない。『「遠慮」はするな、「配慮」しろ』の「配慮」しろ、は「自分の言動を改めろ」ではない。互いに相手の考えや思いを、立場を、存在を、かけがえのないものとして尊重しろということである、と考えます。それが利他の心の源なのではないでしょうか？

### **保護者の皆さまへ 夏季休業中の部活動について(お願い)**

夏季休業中の部活動について保護者の皆さまにお願いがあります。

6月中旬頃から日本全国で熱中症による救急搬送等が数多く報道されるようになりました。

本校においても市及び木二中の熱中症ガイドライン及び部活動ガイドラインに則って活動しているところではありますが、昨今の尋常ではない猛暑から、夏季休業中の部活動を制限させていただく可能性があるということについてご理解・ご協力をお願い申し上げます。

中には部活動をもっと増やしてほしい、勝つために練習時間をもっと確保してほしいといったご意見もあるかと思いますが、我々大人が最優先に考えることは「勝つこと」よりも「生徒の命」です。生徒の命を最優先に考えて活動しなければなりません。

私には決して忘れてはならない過去があります。ある私立高校で教師として6年目を迎えた9月、詳細については控えさせていただきますが、部活動の練習後に倒れ、一度も意識を取り戻すことなく他界してしまった生徒がいました。私が担任をしていたクラスの生徒でした。ご両親が勤務先から病院に向かつてはいましたが間に合わず、医師に促され最期を看取ったのは担任であるこの私でした。ベッドに横たわる生徒の胸ぐらを掴み、「いつまで寝てんだ、起きろ！」と医師に制止されるまで生徒の名前を叫び続けたことを今でも忘れることなく鮮明に覚えています。

教師として「生徒の死」を二度と経験したくないと思いますし、校長として木二中の先生方にも同じ経験はさせたくない強く、強く考えているところです。

どうか、熱中症予防のために部活動を制限(活動停止)することに対しまして、ご理解とご協力をいただきますよう重ねてお願い申し上げます。よろしくお願いいたします。